



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637
インターワンプレイス烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 久保 佐世

主な内容
第190回代議員会特集 (2面)
地区医師会との懇談 亀岡船井 亨 (3面)
医療費控除の範囲について (4面)

ご用命はアミスまで
◆医師賠償責任保険
◆休業補償制度
(所得補償、傷害疾病保険)
◆針刺し事故等
補償プラン
◆自動車保険・火災保険
☎075-212-0303

医師と患者の信頼関係崩す 管理・統制は許さない!

第190回定時代議員会開く

京都府保険医協会は1月28日、第190回定時代議員会を開き、2015年度上半期活動報告および下半期重点方針、決議案を採択した。代議員57人、理事者18人の出席で、茨木副議長が進行した。

上半期重点活動を総括

鈴木由一 副理事長から15年度上半期の活動を総括。政府は骨太方針を閣議決定し、経済成長重視の姿勢を示していることを報告。社会保障費の伸びを3年間で1・5兆円程度に抑制することを目標に、「受診時定額負担」など新たな「受診抑制策」が検討されている。



活動方針を提案する垣田理事長

そのような中、協会は各

党の府議団と懇談を進め、新専門医制度や地域包括ケアなどで意見交換を行った。また、京都市のリハビリテーションセンター附属病院廃止を巡る問題へも対応。その他、TPP(環太平洋連携協定)の問題、原発問題についても、共同している団体と講演会の開催や抗議声明の発出などの取り組みを進めたことを報告した。また、昨夏は安全保障法制阻止に向け平和問題

主張

京都府保険医協会の医療安全対策は、2015年度で満55年を経過した。5年前にも、医療安全対策50周年として、医療安全シンポジウムの記念開催をはじめ、幾多の刊行物を記念発行したが、京都の会員のみならず、全国の医療関係者から、数多くの注文を受け、それに伴い医療安全研修会にも講師として召かれ、それなりの評価をいただいたと判断している。

への取り組みを強化。人々の健康や命を守る医師の立場から軍事大国化の流れに反対し、医師・医学者アピール賛同やポスター運動に取り組んだことなどを報告した。さらに、16年10月に開催する全国保険医団体連合会の第31回医療研究フォーラムに向けて、「新専門医制度」の全体像とその問題の本質を捉えるための連続企画「開業医フォーラム」を開催していることを紹介した。

理改善を求めたことを報告した。審査・指導対策では、近畿厚生局と懇談。近畿厚生局管内の各協会がとりまとめた「個別指導および監査の改善を求める決議」をもとに、「弁護士の手帯同および録音」など12項目の改善を求めたことを報告した。

「誰かが社会保障で生きられる国に」
続いて、渡邊副理事長が情勢を報告。2016年度診療報酬改定は本体はプラス0・49%、外枠とされた「制度改革項目」を含めて、実質はネットでマイナス1・43%となったことを報告。総体としての引き下げの問題はありつつも本体改定率がプラスとなったこと

とは、この間、我々が厚労省交渉などの取組みを重ねてきた成果と述べた。
一方で、医療提供体制改革および医療保険制度改革は着々と進められている。これらの改革の行く末は、形だけの皆保険制度を残すものであり、国のなすべき医療保障責務を放棄するものだと強調。こうした国が思い描く医療提供体制を支えるために、「新専門医制度

が利用されようとしていることに警鐘を鳴らした。
そして、今こそ我々は国民皆保険制度を支え地域医療を担っている「開業医医療」の正当な評価を求める必要があるとし、誰もが公的な医療・社会保障で生きられる国を目指す運動に立ち上がるべきだと述べた。

医師養成のあり方を大きく変える「新専門医制度」については、日本の医療を支えてきたこれまでの開業医制度が問われている課題と認識し、何が問題とされ、どういった解決の方向性が目指されているのか。新制度実施でどういった変化が起こるのかなど、問題点を整理し議論した上で、提言をまとめていきたいとした。

なお、16年10月に京都で開催される保団連主催の医療研究フォーラム(関連5面)においても、この問題をメインテーマとし、全国の保団連会員に議論の輪を広げたいとした。最後に、議部理事が決議案(2面全文掲載)を読み上げ、提案。すべて賛成多数で採択された。

今回の55周年でも、『医療安全事例集』医師が選んだ55事例』『医療安全を身につけるために』医療安全研修DVD Part II』
同様に、全国に対してPR

今回の55周年でも、『医療安全事例集』医師が選んだ55事例』『医療安全を身につけるために』医療安全研修DVD Part II』
同様に、全国に対してPR

「医療安全対策55周年記念特集」を相次いで発行している。特に京都協会の会員各位には、是非とも目を通しているはずである。恐縮

「医療安全対策55周年記念特集」の中で述べたように、あと数年で(急激な増加傾向に転じる可能性も

医療安全担当者、会員各位の力強い味方、スタッフとなつてもらえることだろう。もちろん、会員ご自身が参加されればなおさら効果は高まると思われる。

協会は55年前から、医療安全に関して、現場主義の「会員本位」での活動を心掛けてきた。また、足りない面があるかもしれないが、医師賠償責任保険の運用にも万全を図りながら、これからは会員の生の声を聴きつつ、医療安全対策に精進していくつもりである。

協会発行の医療安全関係の刊行物と諸制度のご利用を

「医療安全対策55周年記念特集」を相次いで発行している。特に京都協会の会員各位には、是非とも目を通しているはずである。恐縮

「医療安全対策55周年記念特集」の中で述べたように、あと数年で(急激な増加傾向に転じる可能性も

医療安全担当者、会員各位の力強い味方、スタッフとなつてもらえることだろう。もちろん、会員ご自身が参加されればなおさら効果は高まると思われる。

協会は55年前から、医療安全に関して、現場主義の「会員本位」での活動を心掛けてきた。また、足りない面があるかもしれないが、医師賠償責任保険の運用にも万全を図りながら、これからは会員の生の声を聴きつつ、医療安全対策に精進していくつもりである。

医療安全担当者、会員各位の力強い味方、スタッフとなつてもらえることだろう。もちろん、会員ご自身が参加されればなおさら効果は高まると思われる。

協会は55年前から、医療安全に関して、現場主義の「会員本位」での活動を心掛けてきた。また、足りない面があるかもしれないが、医師賠償責任保険の運用にも万全を図りながら、これからは会員の生の声を聴きつつ、医療安全対策に精進していくつもりである。

厚労省は来年度から介護保険軽度者向けの生活援助サービスを保険給付対象から外すことを検討するらしい。膨らみ続ける社会保障費を抑えるためだという▼長寿高齢化が進み医療介護の必要性が増す一方、出生率の減少が止まらず、労働人口も減少してきている。年金支給開始年齢を引き上げ、定年も引き上げ、労働人口減少を防ぐこととしている▼しかし高齢になっても労働するには健康が必要である。介護を受けず自立するにも健康が大事である。高齢者医療窓口負担2割化は、医療を手控えて健康悪化につながる。生活援助サービスの中止は栄養不良・生活環境悪化をきたしフレイルに陥る。ヘルパー訪問による孤立や引きこもりの早期発見でのフレイル予防の機会を失う▼出生率が増えないなら、高齢者に十分な医療を提供し健康寿命を延ばし、生活援助サービスにより、孤立や引きこもり、栄養障害からフレイルに陥るのを防ぐことが必要である。このことが介護需要の減少につながる▼最近地方創生が謳われているが、基本的に集中と選択である。山間僻地は切り捨てられる。医療と介護を提供する建前で高齢者には住み慣れた土地を離れ移動が求められる▼もし認知症になっても慣れた親しい環境で生活できれば周辺症状は抑えられる。そのような社会をつくるのが本場の地方創生であろう。(恭仁)